



(高知)

田村遺跡群は、高知空港拡張整備事業に伴い調査が行なわれ、弥生時代及び中世を中心とする、遺構・遺物が検出されており、高知平野における中心的遺跡である。中世の遺構は方形の環濠屋敷跡であり、調査区の北には、守護代である細川氏の居館とされる田村城館跡も所在している。田村遺跡群については既に本誌第五号で報告したが、その際未報告であった分を今回

高知・田村遺跡群

- 1 所在地 高知県南国市田村字寺の前
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)一月～三月
- 3 発掘機関 高知県教育委員会
- 4 調査担当者 廣田佳久
- 5 遺跡の種類 環濠屋敷跡
- 6 遺跡の年代 室町時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

報告する。

今回報告する木簡は、屋敷跡の井戸から出土した三点中、文字の読める二点と、近世墓出土の位牌一点である。井戸及び近世墓ともに、田村城館跡の南に広がる環濠屋敷跡で検出されており、井戸は屋敷跡の南東端部で、また近世墓は濠の北で一九基が集中して検出されている。

井戸は直径1m、深さ四・三mの円礫による石組であり、底部に直径〇・六mの、自然木くりぬきの井筒が設置されている。出土遺物は木簡の他、曲物の底板、手桶の把手、備前甕、青磁などである。近世墓は三基が切り合っており、位牌が出土した墓墳は、長径二・二m、短径〇・六七m、深さ〇・七五mの方形であり、左手を胸に置いた仰向けの人骨が検出され、頭部の横には京焼系統があり、位牌は頭部の北一〇cmの所から出土している。

8 木簡の积文・内容

井戸

- (1) 「妙法蓮華經奉勸請法華守護水神」^{〔社カ〕}
慶長十一年十□ (263)×31×3 019

- (2) 「南無妙法蓮華經奉勸」
(158)×56×2 019

近世墓

(3) 「

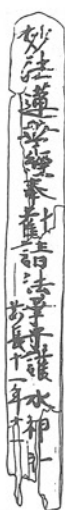
安永十 辛 丑年

新寂円月蓮耀靈

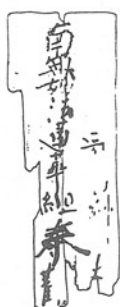
二月□□日

(243)×86×14 061

(1)(2)の札は水神に対する祈禱札と考えられ、墨書からは日蓮宗寺院の関与があったことを知ることができる。田村城館跡には、現在



(1)



(2)



(3)

も日蓮宗寺院細勝寺が存在しており、その前身は守護代細川勝益により建立された桂昌寺と考えられ、井戸の所在する環濠屋敷の主は、日蓮宗に関係するものとみられる。

9 関係文献

高知県教育委員会『高知県田村遺跡群』（一九八三年）

（森田尚宏）